

避難時には、出席簿とこのマニュアルを持参する。

令和7年度 宇和島市立城東中学校

危機管理マニュアル

(教室備付用)



救急搬送の要請はためらわず、周囲で速やかに判断する

地震発生

- ◎ 緊急地震速報が聞こえたら、まず安全確保 <勝手に飛び出さない。>
- ☆ 緊急地震速報（警報）は、最大震度が5弱以上と予想された場合に発表される。
- ☆ 南海トラフが震源の場合、緊急地震速報から主要動が来るまでに20～30秒程度ある。

「3ない」の場所を確保	「上からものが落ちてこない」
※ 可能なら出口確保	「横からものが倒れてこない」
	「ものが移動してこない」



- ゆれが発生したら、机の下に隠れてしっかり脚を持たせ、頭部を守らせる。
- ゆれがおさまったら、放送に従って避難開始。（放送不通の場合は指示を待つ。）
- 授業者は出席簿を持ち、出席番号川頁に整列させる。
- 「基本の避難経路」を用いて避難する。 — 確・速・静 —
校舎の倒壊の状況などによって、避難経路は柔軟に変更する。
- 避難場所で整列させたら、出席簿と照合しながら生徒を確認する。
誰がいなかを素早く確認することが最優先。
- 学級の生徒が全員避難していることが確認できたら、学年主任に報告する。



報告経路 学級担任（授業担当者）→学年主任→教頭→校長

- ※震度4以上→委員会へ報告 震度5弱以上→管理職参集 震度5強→管理職+必要と定める者
安否確認を行う（教頭） ← 【主幹、学年主任、生徒指導】 ↑
- 震度6弱以上→全員参集 （校区の通学路の点検を行う）

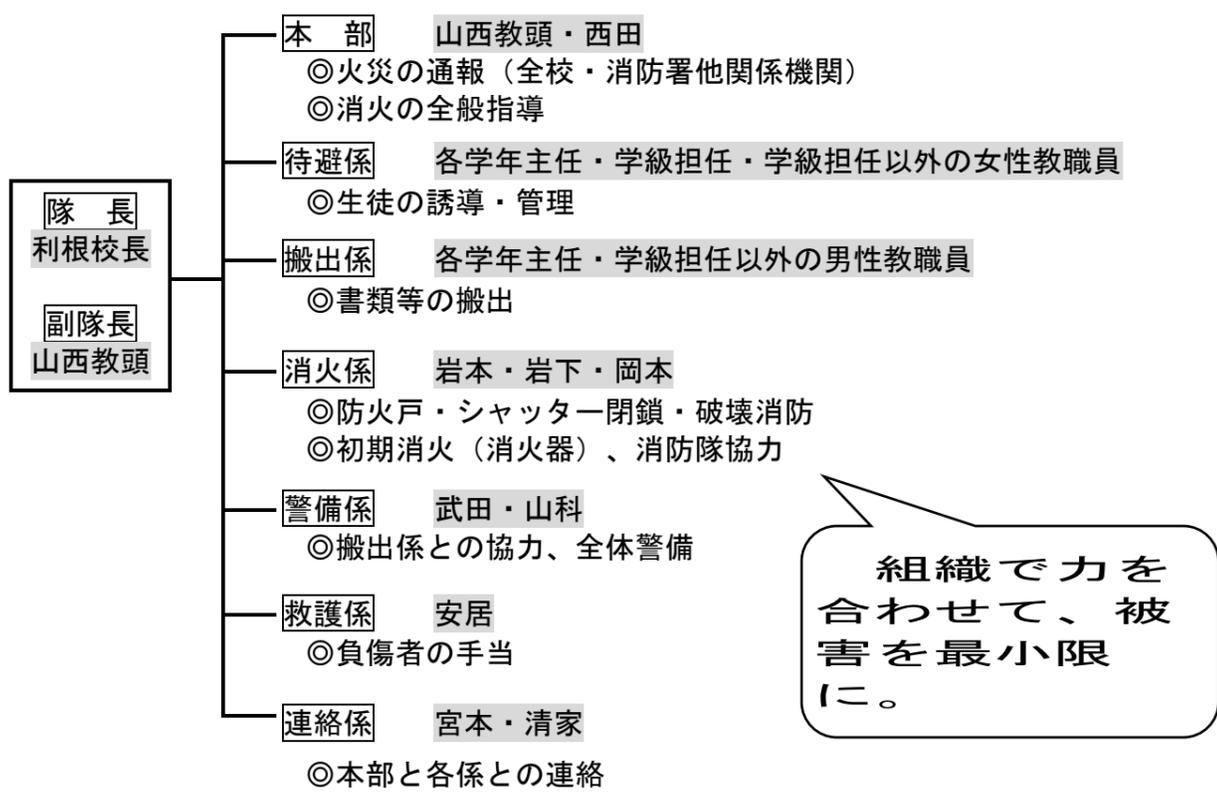
(大)津波警報発令

- ☆ 大津波警報:3mを超える「巨大」 津波警報:1～3m「高い」 津波注意報 0.2～1m
- ☆ 海拔 グラウンド2.0m、1階:2.8m、2階:6.5m、3階:10.2m、4階:13.9m、屋上:17.6m
- ☆ 南海トラフ大地震で想定される津波の高さ 宇和島市最高:13m、宇和島港:6.5m
【山の斜面では津波の遡上が起こり、4倍の高さまでせり上がることがある。】
- ☆ 南海トラフ大地震で想定される津波到達時間 宇和島市:地震発生後 12分後

- (大)津波警報が発令されたら校長の指示に従い、第2避難場所に避難する。→浅田組資材置場
※ ただし、状況によっては避難場所が変更になることがある。臨機応変な対応を。
 - 「引き渡しカード」をもとに、保護者に生徒を引き渡す。ただし、明らかに津波が襲ってくる場合は、安全が確保されるまで、第2避難場所にとどまらせる。
- 津波注意報：部活動中止、三浦生徒は引き渡しを行う。
南海トラフ地震臨時情報 巨大地震警戒：部活動中止、三浦生徒引き渡し



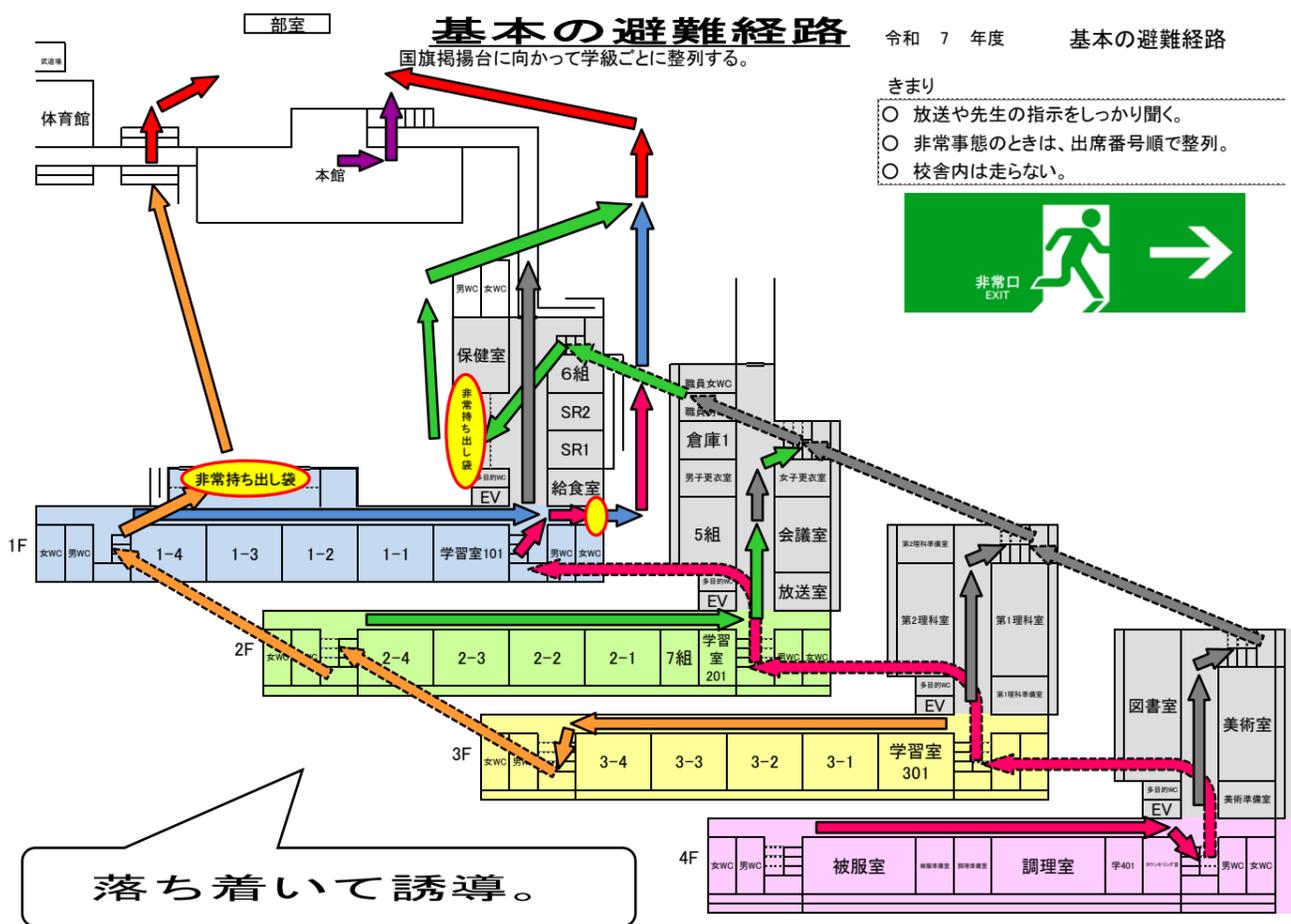
非常災害時組織



組織で力を合わせて、被害を最小限に。

- ※ 人命最優先で任務を行う。生徒の安全が確保されてから、上記の任務にあたる。
- ※ 隊長の指示により、学級担任等も各係の応援に回る。

基本の避難経路



- 令和7年度 基本の避難経路
- きまり
- 放送や先生の指示をしっかりと聞く。
 - 非常事態のときは、出席番号順で整列。
 - 校舎内は走らない。



落ち着いて誘導。

火災発生



- ① 火災が発生したら、近くの教室の教員に応援を頼み、職員室への連絡、初期消火とともに、火災現場からの生徒の退室の指示を迅速に行う。
- ② 職員室にいる教員は、避難指示の放送、119番通報、消火の応援等を行う。
- ③ 職員室から放送で避難の指示がある。教室の窓を閉める。ハンカチ等を用意させる。
- ④ 授業者は出席簿を持ち、出席番号順に整列させる。
- ⑤ 「基本の避難経路」を用いて避難する。— 確・速・静 —
ただし、出火場所によっては、火元から離れるような経路を通る。
- ⑥ 避難場所で整列させたら、出席簿と照合しながら生徒を確認する。
- ⑦ 学級の生徒が全員避難していることが確認できたら、学年主任に報告する。
報告経路 学級担任（授業担当者）→学年主任→教頭→校長



不審者侵入



- ☆ 教員は日頃から来校者にあいさつをするなど、必ず声を掛ける。不審な人物については、来校の要件を聞き、職員室まで案内する。
- ① 不審者が校内に侵入したら、複数の教員で対応するとともに、職員室へ連絡する。
- ② 不審者が教室に入ってきたら、授業者は大声を出しながら不審者の静止に努め、生徒を教室外に出させる。近くの教室の教師は不審者の静止の応援、職員室への連絡、周辺教室の生徒への避難等の指示を出す。
- ③ 職員室にいる教員は、避難指示の放送、110番通報、体育館の開錠、職員室、事務室、保健室にあるさすまたを持って不審者対応の応援等を行う。
- ④ 1階の教室に不審者が侵入した場合は、1階の教室の生徒は体育館へ避難させる。上の階の教室は内側から鍵をかけて、不審者が侵入できないようにする。2階以上の教室に不審者が侵入した場合は、その階とその階より下にいる生徒は体育館に避難させる（最短距離でよい）が、その階より上の教室は内側から鍵をかけて、教室内のなるべくベランダ寄りまで生徒を待機させる。
本館や体育館に不審者が侵入した場合は、新校舎の昇降口や出入り口の鍵をかけ、教室内の鍵もかける。生徒が新校舎に避難して来た場合は開ける。



心肺停止



- ① 周囲の安全の確認をする。
- ② 意識の有無を確認する。
- ③ 意識がなければ、近くの教員に119番通報、AEDの運搬、職員室への連絡を頼む。AEDは職員玄関にある。
- ④ 呼吸の有無を確認する。「普段どおりの呼吸」がなければ心肺蘇生を開始する。
圧迫のテンポは1分間あたり100-120回。
訓練を受けていない救助者は、胸骨圧迫のみの心肺蘇生法を行う。(1)30回
人工呼吸の技術と意思がある場合は、
胸骨圧迫30回→人工呼吸2回をAED到着まで繰り返す。
- ⑤ AEDが到着したら、AEDの音声指示に従って操作をする。
- ⑥ 電気ショックの後、AEDから心肺蘇生を再開するように音声指示があったら、③の5セット→④を救急車が到着するまで繰り返す。(2)2回



迷わず、素早い対応を。



異物混入



- ① 給食に異物混入が確認されたら、学級の生徒全員すぐに食事を止めさせ、混入した現物を保存する。
- ② 異物が混入した食物を食べた生徒の容態を確認し、必要に応じて吐かせる。
- ③ 速やかに校長に報告し、校長の判断で全校生徒の食事を止めさせる放送を入れる。生徒の容態が悪い場合は、119番通報を入れる。

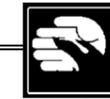
出血



- ☆ 人の体重の約1/12は血液。体重60kgの人は約5Lの血液が体の中を流れている。
- ☆ 体内の血液の30%を失うと、生命に危険を及ぼす。(体重60kgの人で1.5L)
- ① きれいなガーゼやハンカチをきず口に当て、その上を手で圧迫する。
- ② 出血の程度によっては、近くの教員に保健室、職員室への連絡を頼む。大量に出血している場合は、119番通報も頼む。



やけど



- ① 患部をすぐに流水で冷やす。衣類をつけている場合は、無理に脱がさず衣類ごと水で冷やす。
- ② やけどの程度によっては、近くの教員に保健室、職員室への連絡を頼む。範囲が広いやけど、顔面や陰部のやけど、皮膚が真っ白になったり黒く焦げたりしたやけどの場合は、119番通報も頼む。



熱中症



- ☆ 熱中症には、「日射病」、「熱痙攣」、「熱疲労」がある。
- ☆ 手足の筋肉の痛み、筋肉の硬直、体のだるさ、吐き気、頭痛やめまいなどの症状が現れる。立ちくらみ、頭がボーッとして注意力が散漫になることもある。
- ☆ トンチンカンな言動がみられると危険な状態である。
- ① 風通しのよい日陰やクーラーが効いている涼しい場所に移動させる。
- ② 近くの教員に保健室、職員室への連絡を頼む。
- ③ 衣服を脱がせ、うちわや扇風機で風を当てるなどして体を冷やす。氷のうなど準備できれば、首、脇の下、太ももの付け根などに当てる。
- ④ 発汗により脱水症状になっているので、水分、塩分を補給する。傷病者が飲みたくないと言っても、励まして飲ませる。
- ⑤ 反応が鈍くなったり、自分の力で水を飲めなかったりすれば、119番通報をする。



弾道ミサイル発射



- ☆ 弾道ミサイルが発射された場合には、爆風や破片等による危険が想定される。
- ① 屋外にいる場合は、近くの建物の中や地下に避難し、床に伏せて頭部を守る。
- ② 屋内にいる場合は、できるだけ窓から離れ、床に伏せて頭部を守る。

原子力災害



- ① 第一に屋内退避（屋内退避をすることで、放射線による影響を軽減することができる）。
- ② 窓を閉める。換気扇を止める。顔や手を洗い、うがいをする。衣服を着替える。食品にラップやふたをする。